人材育成事業

会計講座

地区まちづくり活動に必要なスキル向上のための「人材育成事業」が行われました。

今回は、各地区でまちづくり協議会や各種コミュニティ団体の会計を担当されている方を対象に開催された会計講座についてご紹介します。

第１回　１月 29 日（火）　「帳簿管理で役立つＥＸＣＥＬ関数講座」

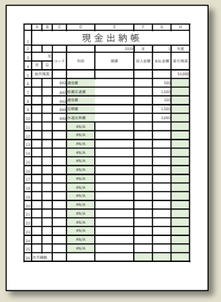
エクセルでの会計簿作成に役立つ関数などを学び、帳簿管理の基礎を学びました。

第２回　２月 20 日（水）　「出納簿の使用方法講座　その１」

インターネットでダウンロードできる無料、有償のソフトとその使い方を紹介いただきました。

第３回　３月７日（木）　「出納簿の使用方法講座　その２」

出納簿から決算書を自動作成できるソフトを紹介いただいたほか、コミュニティ団体運営の手引きについて説明を受け、会計や監査の考え方について確認しました。



コミュニティ団体の運営とお金の管理は、活動が活発になればなるほど複雑になりがちです。

また、同じ内容の支出でも団体によって計上する費目が違ったり、帳簿などの管理方法が異なると、地区全体での状況把握が難しくなります。

さまざまな団体が参画するまちづくり協議会として、スムーズな連携が進められるよう、会計のしくみをシンプルに整えて行きたいですね。

【発　行】　平成 31 年 3 月
【発行者】　富士市市民部まちづくり課
富士市永田町 1 丁目 100 番地（富士市役所 3 階）
☎（0545）55-2887
http://www.city.fuji.shizuoka.jp/

次号もお楽しみに♪

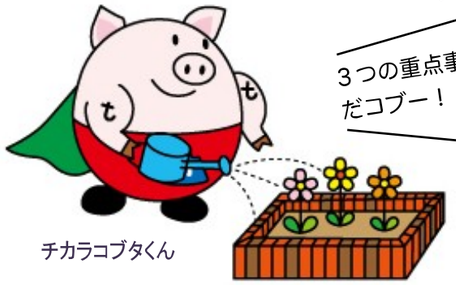
富士市

コブタレポート

2019 March

vol. 12

■地域の力こぶ増進計画・ニュースレター■



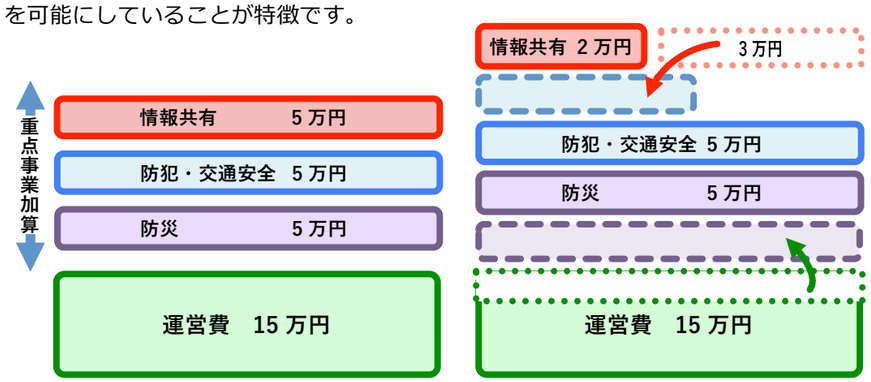
特集◆まちづくり協議会活性化補助金 ❶

富士市まちづくり協議会活性化補助金

平成 29 年度から、『富士市まちづくり協議会活性化補助金』制度が導入されました。

これは、まちづくり協議会に対して交付される補助金で、運営費に１５万円、３つの重点事業（情報共有、防犯・交通安全、防災）にそれぞれ上限５万円が加算され、合計で最大３０万円の補助が受けられる制度です。

補助率は 100%で、補助申請に伴う地区の費用負担はありません。３つの重点事業への加算については、まちづくり協議会の機能強化に欠かせないテーマとして、特にまちづくり協議会活動を後押ししようと創設されました。地区の状況や事業内容に合わせて柔軟に活用ができるように、運営費分を重点事業へ、また、重点事業間で流用することを可能にしていることが特徴です。



平成 29 年度の重点事業加算分は 26 全地区で活用されています。

■平成 29 年度の活用状況

情報共有	21 地区
防犯、交通安全	25 地区
防災	22 地区

３分野	17 地区	
２分野	８地区	防犯と防災（4 地区） 情報共有と防犯（3 地区） 情報共有と防災（1 地区）
１分野	１地区	防犯のみ

これからの地区まちづくりは、地区の状況に応じたきめ細やかな活動がより一層求められます。日常の活動のなかから地区のニーズなどの情報を集め、まちづくり協議会の中で共有し、課題解決のために独自の活用方法を工夫していきましょう。

どう使ってる？ まちづくり協議会活性化補助金

防犯・交通安全

「防犯・交通安全」は地区全体に関わる課題として、日常的に地区住民のみなさんに関心を持っていただきたいテーマです。

25 地区が申請し、最も活用された分野ですが、使途のほとんどが物品購入と報告されています。

- ●パトロール時の備品 … ベスト、帽子、腕章など
- ●啓発のために広く配布されるもの … キーホルダー、ライト、ボールペンなど
- ●啓発行事等に使われる備品 … のぼり旗、横断幕など

購入されたものには、どのような目的が込められているでしょうか？どのような活用され方を想定し、どのような効果を期待しているでしょうか？また、まちづくり協議会の中で、どのような課題共有を図り、どのように決められたのでしょうか？

地区のみなさんに、購入されたモノの背後にあるまちづくり協議会の思い、願いを広く知らせていきましょう。

また、購入にあたっては、その効果を測定できる方法を事前に検討しておくことも大切ですね。

例えば…**【啓発グッズを配る】**

情報収集

▼

問題を共有する

▼

対応策を話し合う→みんながいつも「安心安全」を意識できるようにしよう

▼

方策例１：啓発グッズ（「安心安全」キーホルダー）を配る

▼ ＝対象者・タイミング
波及効果を想定したインパクトのある配り方

啓発グッズをもらう

効果１ 日常的なアイテム＝身につける ／ ＝具体的なメッセージ 意識や行動が変わる

効果２：身につけている人を見た人が気づく、意識する

効果３：身につけた人がたくさん目につく　＝地区のメッセージ
→多くの人の目に触れるもの・みんなが普段につける、使うもの

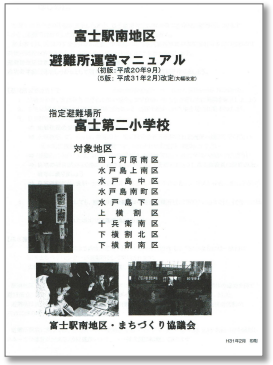
防災

富士駅南地区

防災は、地区まちづくりの根幹をなす重要なテーマです。

富士市内で防災活動が最も活発な地区の一つである富士駅南地区は、平成 19 年度から県や富士市で提唱された「安心・安全のまちづくり」活動への取り組みをきっかけに、現在まで地区主体の防災活動を継続、発展されてきています。

核となる活動は、平成 20 年度から行われている避難所運営訓練。毎年 12 月の地域防災訓練で実施しています。当初は、防災への啓発の意味もありましたが、年を経るごとに、全国各地でおこった災害を参考に訓練内容を見直し、より具体的な課題に的確に対応できるよう実践的なものにしています。また、その過程で、物資や通信インフラの供給、高齢者の受け入れなど、災害時の課題に地区として対応できるよう、企業との連携も進められてきました。現在、地区内の５つの事業所と協力しています。



富士駅南地区

避難所運営マニュアル
（初版：平成20年9月）
（改版：平成31年2月改定）

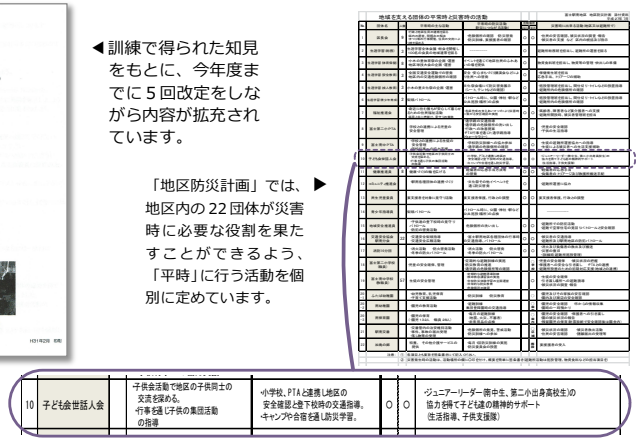
指定避難場所
富士第二小学校

対象地区
四丁河原南区
水戸島上南区
水戸島中区
水戸島南町区
水戸島下区
上横割区
十兵衛南区
下横割北区
下横割南区

富士駅南地区・まちづくり協議会

◀訓練で得られた知見をもとに、今年度までに５回改定をしながら内容が拡充されています。

「地区防災計画」では、地区内の 22 団体が災害時に必要な役割を果たすことができるよう、「平時」に行う活動を個別に定めています。▶



10	子ども食世話人会	子供会活動で地区の子供同士の交流を深める。行事を通じ子供の集団活動の指導	小学校、PTAと連携し地区の安全確認と登下校時の交通指導。キャンプや合宿を通じ防災学習。	○	○	ジュニアーリーダー（南中生、第二小出身高校生）の協力を得てお子ども達の精神的サポート（活活指導、子供支援隊）

この取り組みは、平成 24 年度の地区防災会議設立へと発展し、平成 27 年度には、市内で唯一、地区防災計画を策定することができました。計画には災害時の対策、体制だけでなく、地区として日常に行う防災活動を明示しました。特に、学校との連携、防災教育については、防災部会メンバーが学年ごとのカリキュラムを考案し、富士第二小学校の全学年が防災の授業に取り組んでいます。また、地区内の 22 団体が災害時に必要な役割を果たすことができるよう、「平時」に行う活動を個別に定めることで、日頃からの活動と団体間の連携の重要性が確認されています。

活性化補助金は、主に年間およそ 10 回開催される会議を開くための諸経費などに充てられ、部会内でのきめ細やかなコミュニケーションを支えています。地区内の温度差はまだ感じられ、課題は残っているものの、富士駅南地区のまちづくり協議会は、防災という地区住民全てに関わるテーマから、団体同士のネットワークをより確かなものにしようとしています。